

2019年石川県議会議員選挙・金沢市選挙区の予定候補者発表にあたって

2018年6月25日 日本共産党石川県委員会
〃 金沢地区委員会

県議会議員選挙・金沢市選挙区をたたかう日本共産党の公認候補者として、現職の佐藤正幸（さとう まさゆき）・党県副委員長を擁立します。日本共産党は、唯一の県政野党として県民の声が生きる県政めざし、佐藤正幸県議の再選に全力をつくします。

6期24年続いた谷本県政は、国いいなりで大型開発を推進し、くらし・福祉に冷たい県政を続けてきました。就任直前の1994年と2014年で見ると、老人福祉費は全国5位から29位、児童福祉費は23位から39位に、一方土木費は25位から8位に、地方債残高は13位から2位に膨れ上がりました。子どもの医療費助成の対象は全国最低クラス、国保や介護保険の軽減も、市町のやることとして取り組まず、逆に滞納整理機構を広げるなど強権的な税金徴収を強めてきました。一方、コマツ1社のための金沢港整備（264億円）、県下に大規模道路をはじめ、二重三重の道路建設に多額の税金を投入し、さらに白山にトンネルを掘る小松白川道路建設（1700億円）の調査をはじめると、大型開発優先の姿勢は目に余ります。また、おごり・強権的な姿勢も際立ち、「意見の違う人と会っても意味がない」と市民団体の要請にも会わず、安倍政権の進める憲法改悪や原発再稼働に理解する姿勢をとっています。3月の知事選では、7選を果たしましたが、7期目に入り一層「土木偏重」の政策をとってきており、独断的な態度が改まる様子も見えません。

重大なのは、こうした谷本県政に対し本来きびしくチェック機能を発揮するとともに、県民の切実な声を届けるべき議会が、わが党を除く「オール与党」議会となり、なれあうとともに、事実上後押ししている状況です。議会と議員の在り方が厳しく問われています。

佐藤正幸県議は、唯一の県政野党として、谷本県政の問題点を厳しく批判するとともに、県民の切実な声を県政に届け、県民の要求実現へ諸団体と力をあわせ奮闘してきた。特に、子育て支援で、子どもの医療費の窓口無料を求める運動を粘り強く積み重ね、現物支給を阻んできた県の姿勢を転換させました。原発問題でも、住民運動団体と協力し、志賀原発の再稼働を許さず、廃炉と再生可能エネルギーへの転換を求め積極的な役割を果たしてきました。小松基地問題でも、基地機能の強化、米軍機との訓練の拡大、相次ぐF15戦闘機の部品落下などの事故のたびに、市民団体と共同して基地や県に申し入れ、住民の安全と安心を守るために重要な役割を果たしてきました。県民の要求を届ける窓口としても、諸団体の要求交渉や請願の紹介議員として、かけがえのない役割を發揮してきました。

安倍政権は、森友・加計疑惑に見られる国家の私物化への厳しい批判と、改ざん、ねつ造、隠ぺいなどに対する国民的怒りの広がりの中で、深刻な政治危機に落ち入っています。そうした中でも、働き方改革法案やカジノ法案、TPP11の強行をはかるとともに、原発再稼働の拡大、憲法9条改悪に執念を燃やしています。アベノミクスによる貧困と格差の拡大、社会保

障や医療の改悪、さらに19年秋には消費税10%増税も計画されており、県民生活が脅かされています。

安倍暴走政治や谷本県政と対決し、県民のいのちと暮らし、安全を守る責任をしっかりと果たす党議席の役割は一層重要になっています。

佐藤正幸は、安倍内閣の暴走から県民の暮らしを守る防波堤となる県政、志賀原発の危険から住民の命と安全をまもる県政めざし、がんばります。県民の立場で議員の役割をしっかりと果たす議会をつくるために全力をあげます。日本共産党・佐藤正幸への有権者のみなさんの大きなご支援をここからお願いします。

以上